

関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成24年度 技術情報第12号（クロゲハナアザミウマに対する薬剤効果試験）について（送付）

2011年10月以降、県内の露地および施設キクの一部の産地で、クロゲハナアザミウマ *Thrips nigropilosus* Usel（図1，2）による被害が目立つようになりました。本種は、本県においてキクの害虫として問題になることがほとんどなかったため、防除対策等の情報がありませんでした。

今回、鹿屋市串良町で採集したクロゲハナアザミウマの雌成虫を用いて薬剤の効果試験を行い、下記のとおり取りまとめましたので、防除指導の参考にしてください。

.....

平成24年度 技術情報第12号

1 対象作物 キク

2 対象病害虫 クロゲハナアザミウマ

3 供試虫および検定方法

(1) 供試虫

2012年8月23日に鹿屋市串良町の施設キクほ場から採集し、25℃、14L10Dの恒温室内で累代飼育した雌成虫を用いた。

(2) 検定方法

ア. 葉片浸漬法（雌成虫）

キクの展開葉を所定濃度薬液に浸漬、風乾後、直径5cmのペトリ皿に置き、雌成虫を10頭程度放飼した。放飼後のペトリ皿は25℃、14L10Dの恒温室に静置し、処理24，48，72時間後に生死を調査した。各処理区とも3反復行った。

4 供試薬剤

有機リン剤（オルトラン水和剤，トクチオン乳剤，マラソン乳剤）

ネオニコチノイド剤（モスピラン顆粒水溶剤，ダントツ水溶剤）

その他（スピノエース顆粒水溶剤，プリンスフロアブル，ディアナSC）

注）「きく」または「花き類」の「アザミウマ類」に対する登録薬剤（2012年12月5日現在）。

5 検定結果の概要

マラソン乳剤を除く全ての薬剤で24時間後の補正死虫率は90%以上、48時間後には100%となり、高い感受性を示した（表1）。

6 検定結果の利用上の留意点

検定結果は鹿屋市串良町の1ほ場から採集したものに由来するため、薬剤感受性は地域やほ場によって異なることが予想される。

7 本県における被害確認状況

- (1) 県本土では指宿市，霧島市および鹿屋市，奄美地域で和泊町でのキクへの被害を確認している（平成24年12月現在）。
- (2) 本種のキクへの加害は4～6月の生育初期に多いとされる²⁾。県本土の露地キクでは春から初夏と晩秋に，施設キクでは周年の発生を確認している。また，奄美地域の露地キクでは，気象条件の近い沖縄県で周年発生が認められることから³⁾，同様の発生が予想される。

8 防除上注意すべき事項

- (1) 本種の被害葉はハダニ類による食害と酷似しているため注意する（図3～4）。
- (2) 施設では，開口部（サイド等）から侵入することが多いので，目合い1mm未満の防虫ネットを張る。本種の発生動向を把握するためには出入口や開口部付近での青色粘着シートの設置が有効である。
- (3) 本種は薬剤のかかりにくい葉裏にも生息するので，薬剤散布は丁寧に行う。また，多発すると防除効果が劣るので，低密度の時期から定期的な防除を行う。
- (4) 同一系統薬剤の連用を避け，作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。

9 参考資料



図1 クロゲハナアザミウマ雌成虫（長翅）



前胸と有翅胸節(矢印)の
まだら模様が特徴



図2 雄成虫（短翅）



図3 被害葉（葉表）



図4 上位葉の被害



図5 花の被害

表1 クロゲハナアザミウマ雌成虫に対する葉片浸漬による薬剤感受性

薬剤名	商品名*	有機リン	希釈倍率	補正死虫率**		
				24時間後	48時間後	72時間後
アセフェート水和剤	オルトラン水和剤	有機リン	1,000	97.4	100.0	100.0
プロチオホス乳剤	トクチオン乳剤	有機リン	1,000	100.0	100.0	100.0
マラソン乳剤	マラソン乳剤	有機リン	2,000	17.9	24.3	25.1
アセタミプリド水溶剤	モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド	2,000	97.0	100.0	100.0
クロチアニジン水溶剤	ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド	2,000	100.0	100.0	100.0
スピノサド水和剤	スピノエース顆粒水溶剤	その他	5,000	100.0	100.0	100.0
フィプロニル水和剤	プリンスフロアブル	その他	2,000	100.0	100.0	100.0
スピネトラム水和剤	ディアナSC	その他	5,000	100.0	100.0	100.0
対照区(水道水)			-	0.0	0.0	2.1

* 「きく」または「花き類」で「アザミウマ類」に対して登録のある薬剤（2012年12月5日現在）。

** 補正死虫率% = { (対照生存虫率 - 処理生存虫率) / 対照生存虫率 } × 100

注1) 対照区の値は実測値，その他の処理区はAbbottの補正式による補正死虫率を示す。

注2) 対照区を含む全ての区に展着剤のブレイクスルー(5,000倍)を加用した。

10 参考文献

- 1) 喜久村智子・貴島圭介・大野 豪(2012) 沖縄のキク圃場で発生するクロゲハナアザミウマに対する各種薬剤の殺虫効果 第84回九州病害虫研究会研究発表会講演要旨.
- 2) 梅谷 献二・工藤 巖・宮崎昌久 編(1988) 農作物のアザミウマ 分類から防除まで 全国農村教育協会：313-314.
- 3) GANAHA-KIKUMURA, T. S. OHNO and K. KIJIMA (2012) Species composition of thrips (Thysanoptera: Thripidae) and spider mites (Acari: Tetranychidae) on cultivated chrysanthemum (Asteraceae) in Okinawa, southwestern Japan. Entomological Science 15: 232-237.